

## ライフケアガーデン熱川 本館

症 例 概 要    利用者：80代    女性    要支援1

病名       ： 認知症、高血圧症、喘息、左足関節骨折（2022.6.20）

夫の定年退職を機に伊豆にある夫の実家へ移住。2015年に夫が逝去して以降は独居となる。

長女は精神疾患を原因として自殺、次女は統合失調症により医療機関へ入院している。

2022年6月、交通事故により左足関節骨折を受傷し入院。同年8月家の猫が心配と訴え退院するも、飼育崩壊がみられ家内は不衛生な状態であった。生活環境の影響でご本人も体調不良を訴えるとともに独居に限界を感じたことから相談を受け、2022年11月当施設入居となる。

明るい人柄の一方で、内面では劣等感や精神疾患を抱え入院している娘への不安を抱えていた。

心の声に耳を傾けた多職種の関わりがご入居者の希望を育み、前向きな日々につながった事例。

### 内        容

ご入居者は元来明るい性格ではあるが、日々何か思い詰めている様子であった。前々から気にかけていた職員が頃合いを見計らって、それとなく尋ねたところ「私は何もできなくて役立たず」「生きていても仕方ない」と胸の内を吐露されました。その職員は、ご入居者の笑顔にいつも励まされていること、他の職員に話にくいことがあればお話を伺うことを伝え、ご入居者は「皆から必要とされず寂しい」「入院中の娘が心配」と後ろ向きの心情を吐露された。これを受けて直ちに多職種で情報を共有し、支援体制を構築した。

看護職員は明るい声掛けと傾聴を継続し、介護職員は絵や外食など得意なことや好みに沿ったレクを企画。絵手紙を通して娘さんとの交流を実施した。施設管理課はガーデニング作業を共に行い、食養課はクッキングレクで調理や盛り付けをお願いしご入居者が活躍する場面を提供した。事務職員は娘さんの入院先や後見人と連携し、容体の安定を見計らって面会するために調整を行った。

これらの取組みによりご入居者の表情には安心と自信が表れ、娘さんの誕生日に合わせた面会（入院中の病院にお連れしたもの）が実現すると介護職員と選んだ贈り物を手渡して祝福し、「これからもしっかりしていきたい」と話された。現在も絵手紙を描きながら再会を心待ちにされている。多職種が一丸となってご入居者の胸の内に寄り添い、希望を育み前向きな日々につながった今回の事例をキラキラ

介護賞として推薦します。

**【多職種の間わり】**

**【看護】**ご本人の表情の変化を見逃さず、不安や困ったことはないか傾聴を行った。

**【介護】**ご入居者の得意や好みを理解しレクリエーションを提案。絵手紙を通して娘様との交流が生まれた。

娘様へのプレゼント購入をサポートし共に誕生日をお祝いした。

**【施設管理】**ガーデニングのお礼を伝えることでご入居者の自己肯定感を向上させるとともに、日光を浴びることでセロトニンの分泌を促した。

**【食養】**ご入居者が活躍できるレクリエーションを企画。他のご入居者や職員から感謝されたことでご入居者の表情に自信が表れるようになった。

**【事務】**娘さんの入院先や後見人と連絡を密にとり面会を実現。容体をみながら定期的に面会を行うことを取り決め、ご入居者を娘さんの入院している病院にお連れし面会を実現することで生きる希望を与えた。